

# 2022年度 学校評価報告書

認定こども園ゆうか幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ・健康で粘り強い心を持った子 「つよい子」
- ・豊かな心と思いやりの心を持った子 「よい子」
- ・素直な心と感謝の気持ちを持った子 「かしこい子」

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

- ①健康な心と体（見通しを持って行動）
- ②自立心（自分の力で、あきらめずに）
- ③協同性（お互いの思いや考えを共有する）
- ④道徳性・規範意識の芽生え（して良いこと、悪いことがわかるようになる）
- ⑤社会生活との関わり（人との様々な関わり方に気付く）
- ⑥思考力の芽生え（新しい考えを生み出す喜び）
- ⑦自然との関わり・生命尊重（命あるものをいたわり、大切にす）
- ⑧数量・図形、文字等への関心・感覚（標識や文字の役割に気付く）
- ⑨言葉による伝え合い（心を通わせる中で、伝えたり、聞いたりできる）
- ⑩豊かな感性と表現（表現する喜びを味わい、意欲につながる）

この新しい教育保育観をより具体的に展開できるように努める

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

### (1) 豊かな心を育てる

豊かな人間性をはぐくむために、自己存在感もてるクラスを、豊かな教育保育活動に関わって家庭や地域社会との連携を図りながら、クラス単位及び相互の日常的な教育活動を通して、共感的な人間関係を深める中で、自分のよさを自覚することにつなげたい。

また、自己存在感が、「自分がクラスにとってなくてはならない存在である」と意識する自己肯定感と密接な関係にあることについてはいうまでもない。

友だちとの遊び等の活動にかかわり、集団の中で生活したり活動したりする楽しさに気づくとともに、優しさや親切の大切さに気づく教育保育を展開したい。

### (2) 生活の基礎・基本を身に付ける

生活の基礎・基本を身に付けることと次の事項は大きな関係性があると考えている。

「聞くこと」

- ①保育者の口頭の指示を聞いて行動できる。
- ②一斉の指示を聞いて行動することができる。
- ③クラスでの話し合いを聞いて理解できる。

「話すこと」

- ①自分の思いを適切に伝えることができる。
- ②経験したことを順序よく簡潔に話すことができる。
- ③スムーズに話すことができる。

これらのことができるように、教育保育を展開したいと考えている。

### (3) 保護者からの相談・要望に適切に対応する

・保護者は家庭での子どもの様子や話したことを園に伝え、園は友達関係や子どもの様子を保護者に伝えることで、保護者の話と子どもの話との矛盾点やズレをつかみ、保護者と共に適切な指導をすることにつながられた。根気強く話し合いをすることで解決に向かった事例もある。

・子どもが、園で椅子に座り、机の中で足を大きく動かしたことでケガをしてしまった。その様子をそのまま伝えたのだが、『子どもが机の中でどういう動きをしてケガをしたのか詳しく知りたい。』と保護者とトラブルになりかけた。担任に替わって、主任が保護者の話をよく聴いたところ、ケガをしたときの子どもの状況をもっと詳しく知りたいという保護者の思いが伝わってきた。それで、より具体的に詳しく説明することによって、保護者の理解が得られ、園と一緒に協力していく体制ができた。

・教員が事実をよく確認しないまま指導をしたために、保護者の納得が得られないことがあった。管理職が担任に対して指導をして、保護者に心配を掛けたことを謝罪し、今後はしっかりと事実確認して指導することを約束した。

上記のような事例をもとに、保護者との関係づくりを何らかの形で残して、根気強い対応をしていきたいと思う。

## 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

課題について、全職員で共通理解をして、教育保育の振り返りをしつつ、新しい課題も見つけることができた。

## 5. 今後取り組む課題

### ①地域との関わり

園外保育等で子どもたちと自然を感じる機会を多めに持つ。

地域の方に元気にあいさつをしていく。

地域の他の保育園との交流を進める。

子どもたちと保護者の安全を守る。

### ②教員の資質向上

教員が生き生きと生活できるようゆとりを持たせた業務の見直しを図る。

クラスの様子、個々の子どもの様子を職員会議で話すだけでなく、保育準備をしながら教員間で情報交換をしたり、先輩のアドバイスを聞くなど、資質向上のための努力をしていく。また、報告、連絡、相談を心掛けていく。

運動遊びについての園内研修を行い、第一に安全で、さらに心身の発達を助長できる遊びを、子どもたちと共に展開できるように努める。

### ③保護者との関り

園から、保護者に対して、より積極的に声をかけていく。

保護者が話しかけやすい環境、機会を更に増やすよう努める。

保護者が参加できる場をより活用し、クラスにおける横のつながりを大切にする。

今後もHP等を活用し、園の様子もよりいっそうリアルタイムで伝えていく。

## 6. 学校関係者評価委員からのコメント

先生達が忙しい中、保護者とのコミュニケーションを取ろうと努力している事は十分伝わっています。ただし、子育てに不安を持つ親からするともう少し寄り添ってもらいたいという思いもあるようです。

子育て支援をより有効活用することを考え、しかし、一方で、子どもたちと保護者と職員の安全を守ることにしても、深く考えていかなければならないと思っています。